

汝、星のごとく

©2026「汝、星のごとく」製作委員会 ©風良ゆう／講談社

10月9日(金) 全国公開

〈イオンシネマ今治新都市にて公開予定〉



瀬戸内と東京を舞台に、15年にわたる愛を描いたラブストーリー『汝、星のごとく』。

10月9日(金)公開の映画では今治もロケ地となりました。この映画は作家・風良ゆうさんが2度目の本屋大賞に輝いた作品。瀬戸内のとある島で出会った男女が、複雑な家庭の事情を抱えながら惹かれ合い、それぞれの夢や運命に翻弄されながらも、置かれた場所で懸命に生きていく姿を描きます。

今回の特集では、原作者・風良さんの作品への思いや、主演の横浜流星さん、広瀬すずさんへのインタビューを掲載。作品を通して見えてくる今治の魅力を紹介します。



公式サイト



STORY



美しい海と空が広がる、瀬戸内のとある島。島に転校してきた男子高校生・權／かい(横浜流星)と、この島で育った暁海／あきみ(広瀬すず)。ともに家庭に恵まれず、孤独を抱える2人は、互いに唯一の心の支えとなり、恋に落ちる。夢を掴むために上京する權と、家族のために島で働く暁海。そんな2人に、無情にも突き付けられるいくつもの“岐路”。「わたしは愛する男のために人生を誤りたい。」15年の大恋愛の末に、2人のくだした決断とは…

今治市とのつながり



■エール大使・トークショー

令和7年、風良さんに今治エール大使「IMABALINA Ambassador イマバリーナアンバサダー」を委嘱しました。

『流浪の月』『汝、星のごとく』で2度も本屋大賞を受賞するなど、文学界の最前線で活躍しています。

たびたび今治市を訪れ、取材を重ねて地域の人々との交流を深めるだけでなく、トークイベントを開催するなど、作品を通じて生まれた地域との深い絆が、エール大使就任へとつながりました。



映画化のきっかけ

映画化のきっかけは、横浜流星さんでした。原作を読んで強く心を動かされた横浜さんが、自ら風良さんや藤井道人監督に熱い思いを伝えたことからプロジェクトは動き出します。

託された原作を、藤井監督、脚本家・安達奈緒子さんをはじめとするスタッフが丁寧に紡ぎ、完成したのが本作です。

「ここでしか撮れない美しい景色があった」と語る主演のお二人。物語を彩る主題歌は、RADWIMPSの「夕星-ゆうづつ-」です。



NAGIRA
作家 風良 ゆう

作家。京都府在住。2007年にデビュー。初期代表作に『美しい彼』シリーズや『おやすみなさい、また明日』など。2019年に『流浪の月』と『わたしの美しい庭』を刊行。2020年『流浪の月』で本屋大賞を受賞。2022年刊行の『汝、星のごとく』は第168回直木賞候補作、第44回吉川英治文学新人賞候補作などに選ばれ、2023年に2度目となる本屋大賞を受賞。2026年『多類婚姻譚』が第175回直木賞候補作に選ばれる。

執筆のため、はじめて取材で今治を訪れたのは21年の4月末のことでした。しまなみ海道を渡り瀬戸内の空気を吸い、海の匂いを感じ、今治市出身の担当編集者の河北さんと打ち合わせを重ねることで、この『汝、星のごとく』という物語は産声を上げました。

執筆当時はコロナ禍中で「おんまぐ」の花火を見ることができず、ようやく花火を見られたのは、小説が発売になった22年の夏。この目で見た花火はあまりにも美しく儚く、それ以来、毎年のように今治を訪れ、今では第二の故郷のように感じています。

物語に込めた思いを作者自身が語ることはあまりしたくないのですが、この小説では自分の人生を自ら選び取ることの大切さを描きました。自分らしく生きることが難しい時代、道に迷いやすい時代だからこそ、瀬戸内で見えた夕星を道標にして生き抜こうとする二人の人生の物語です。

そんな小説が、この秋、素晴らしいキャスト・スタッフのもとで映画になります。関係者試写会で拝見したとき、原作者なのに涙が止まらなくなりました。今治の美しい風景や海と空の気配、この地で生きるみなさんの息遣いが感じられる映画です。どうか原作小説も、映画も、今治の皆さんに喜んでいただけますように。

作品紹介

ホシワラム
星を編む
(講談社文庫)



『汝、星のごとく』で語りきれなかった愛の物語人は誰も自分だけの一番星を持っている。「春に翔ぶ」――瀬戸内の島で出会った糧と暁海。二人を支える教師・北原が秘めた過去。彼が病院で話しかけられた教え子の菜々が抱えていた問題とは？ 他2編。

タリコンインタン
多類婚姻譚
(講談社)



第175回 直木賞候補作と一緒に生きる。わかりあえないあなたと。一番近くにいる他人。どうして結婚はこんなに難しくなってしまったのだろう。『流浪の月』『汝、星のごとく』で二度の本屋大賞を受賞した著者が描く、今そこにある愛のカタチ。



KAWAKITA SOHEI
河北 壮平

今治市出身 株式会社講談社 第五事業本部
講談社文庫出版部 部長

今治の地で瀬戸内の魚を食べ本を読んで育ったひねくれた少年は、気がつけば東京で文芸編集者になっていました。

そんな東京文芸ライフの中、風良ゆうさんという素晴らしい作家と出会い、地元を舞台にした物語を創り上げることができました。この小

説には青春時代の僕の経験や感傷もたくさん詰まっています。東京の今の僕自身をほんの少しモデルにした人物も登場します。

今回、今治市の高校生は映画を無料鑑賞できる市の事業が行われるそうです。高校生の皆さん、東京は遠く感じられていますか？

物語は今治も東京も世界すらも関係なく、瀬戸内も時空も超えていきます。今治にかかわる多くの皆様にも、この地で今、青春時代を過ごしているあの頃の僕のような皆さんにも、この物語に込めた思いが届くことを祈っています。

次ページでは映画に主演された横浜流星さん、広瀬すずさんのインタビューや、ロケ地などを紹介します。

映画 『汝、星のごとく』 インタビュー

15年にわたる愛と選択の物語。原作を初めて読んだ時の感想を聞かせてください。

■横浜流星さん

愛と選択の物語、いろいろな要素はありますが、最初は2人の話の中に男女の本質のようなものが深く描かれていると感じ、男のエゴやプライドだったり、大切なものを持つことで強くなる一方で、弱くもなってしまうとか、そういう部分にすごく共感しました。社会の歪みや家族というものに縛られながらも、自分の人生を自分で決断して生きていく姿にも感銘を受け、まさに今、届けるべき作品だと感じて、自分は権として生きたいと思えました。

■広瀬すずさん

読み物としての儚さがとても面白くて、一瞬で引き込まれました。映画を観てくださる人がこの2人のことを知ってくれること自体、希望になると思うんです。2人がお互いの存在によって「生きている実感」を感じるような人生で、現実にはなかなかない選択さえ、羨ましく感じました。演じるにはハードな役でしたが、それも含めてこの作品に参加できてうれしいです。



りゅうせい 流星さん／青埜 権 役
あきみ 暁海 役
かい 権 役
あきみ 暁海 役
広瀬 すずさん／井上 暁海 役

映画が完成した今、お二人にとってこの作品はどのような存在になっていますか？

■横浜さん

人生は一度きりなので、後悔しないように生きたいと日々思っているんですけど、彼らの生き方は「自分の信じたものを大切に、たとえ間違っていたとしても自分で決断したのならそれでいい」と、背中を押されたような気がします。原作を読み、自分から「映画化したい」と熱望したこともあって、自分にとってもこの作品は一番星になっています。見てくださる方々にも、一番星の作品だと思ってもらえたらうれしいです。

■広瀬さん

最初にこの作品を知ってから今まで、印象はあまり変わっていないんです。公開までまだ時間があって、まだ自分たちの手元にある状態なので、思いが熟成されていく感覚があります。楽しみという、シンプルな感情が強いですね。周りの反応としては、世代が上の方々からの反響が大きくて。男性の方や、年齢層の異なる方にも刺さっているようで、作品の色味の広がりを感じて楽しみです。

撮影中、この景色は忘れられないと心が動かされて、もう一度行きたいと思う場所はどこですか？

■横浜さん

権と暁海が行った、人目につかない浜辺です。2人にとっても大切な場所です。

■広瀬さん

浜辺もそうですし、最初に自転車で走る海沿いの道や、北原先生と2人で歩くシーンを撮った道も印象に残っています。すごくオープンで、何もなくて、人も少なく、孤独とはまた違う「自由」を感じられる場所でした。

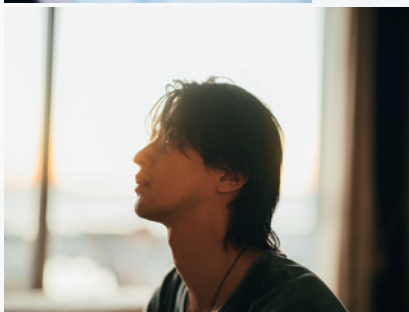
ロケ地マップは
こちらから▶



映画『汝、星のごとく』公開記念として、市役所本館1階ロビーにて展示中

写真は今治市出身の末長真さんが撮影しました。





©2026「汝、星のごとく」製作委員会 ©風良ゆう／講談社

——
愛する人のために、
人生を誤りたい——



リラックスできた瞬間や、美味しかったグルメ、地元の方との交流を含めて、今治での印象を教えてください。

■横浜さん

撮影は大変だったんですけど、地元の方々が温かく迎えてくれました。撮影が早く終わった日などは、近くの銭湯やサウナに行かせてもらって、気持ちを切り替えて次の日に臨めました。鯛飯が好きでよく食べました。

■広瀬さん

この付近のパン屋さんによく行きました。地元の方しかいないようなお店にもお邪魔して、焼き鳥を食べたり、海鮮をいただいたり。他の街に少し出かけたこともあったんですけど、今治の穏やかさに戻ってくると、落ち着くと感じました。

この映画の見どころやメッセージをお願いします。

■横浜さん

ここでしか撮れない美しい景色が、しっかりと作品に収められています。今治の皆さんには、見覚えのある場所がたくさんあるのでは。この作品をたくさんの方に届けることで、今治の魅力もしっかり伝えられると思います。

■広瀬さん

おんまぐの花火大会は、衝撃的にびっくりしました。こんなにも花火の迫力や、感動

する景色があるのかと、忘れられないです。これまで、夏の花火大会を「楽しい」という感覚で捉えていたんですけど、この作品を通して「儚いもの」として感じるようになりました。皆さんにとっての花火大会も、この映画を見たら少し違う感覚になるかもしれません。そんな視点も楽しんでもらえたらうれしいです。



横浜さん、広瀬さんに続き、風良ゆうさん、藤井道人監督も市役所を表敬訪問。今治の美しさや、撮影に協力した方々への感謝が何度も聞かれました。



おんまぐにサプライズ登場したお二人。映画コラボとして權と暁海カラーの花火も披露されました。

今治の魅力を再発見しませんか。

映画『汝、星のごとく』高校生鑑賞支援事業

■対象・配布方法

- 市内の学校に通学している高校生は、高校から映画鑑賞チケット引換券が配布されます。
- 市内在住で市外の学校に通学している高校生は、10月9日頃から12月28日(月)までに、学生証と住所の分かるものを持参の上、観光課へ ※詳しくはホームページを確認ください。

■上映場所

イオンシネマ今治新都市

■入場料 無料

■問合先

観光課 TEL 0898-36-1541 (平日 8:30~17:15)



ホームページ